

# 第5回 千葉県サッカー医科学研究会

日時 : 平成27年2月14日(土) 15:00~

場所 : みやざき倶楽部  
千葉市中央区宮崎1-15 Tel 043-268-6800

共催 : 千葉県サッカー医科学研究会  
公益社団法人 千葉県サッカー協会  
第一三共株式会社

会費 : 1000円(学生は無料)

当日はご参加いただいた確認のため、ご施設名・ご芳名のご記帳をお願い申し上げます。  
ご記帳いただいたご施設名・ご芳名は、医薬品の適正使用情報および医学・薬学に関する情報の提供のために利用させていただきます。何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

謹啓

時下、皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、下記内容にて「第5回千葉県サッカー医科学研究会」を開催する運びとなりましたので、謹んでご案内いたします。

今回は特別講演を昨年のワールドカップブラジル大会に帯同したお二人の先生にお願いしております。日本代表を食事から支えてくれたシェフの西先生とドクターの立場から代表チームをサポートした池田先生から、メディアでは伝わってこない日本代表チームの興味深いお話を聞くことができると思います。

今回もサッカーに関心を持たれる医師、医療従事者、トレーナー、指導者、学生の方々の多くのご参加をお願い申し上げます。

謹白

15:00～ 情報提供『ロキソニンブランドについて』

第一三共株式会社

15:05～ 【開会の辞】 千葉メディカルセンター 副院長 森川嗣夫 先生

15:10～ 【一般演題】（講演6分 質疑3分）

司会：旭中央病院 整形外科 赤木 龍一郎 先生  
なのはな整骨院 梁瀬 如加 先生

演題1 育成年代サッカー選手における下肢・体幹の柔軟性：年代間の比較

1) 了徳寺大学、2) 柏レイソル、3) 柏市立柏病院

○高橋顕三<sup>1)</sup>、青木琴弓<sup>1)</sup>、越田専太郎<sup>1)</sup>、野田哲由<sup>1)</sup>、近藤正史<sup>2)</sup>、大津正夫<sup>2)</sup>、池川直志<sup>3)</sup>

本研究ではフィジカルテストのデータを基に育成年代サッカー選手における筋タイトネスの年代間の比較を行った。測定変数は straight leg raising (SLR) 角度, Finger to floor 距離 (FFD), 踵殿距離 (HBD), 足関節背屈角度, 下腿前傾角および股関節外旋角度であった。各項目において一元配置分散分析を用い平均値の差を分析した。なお、有意差が認められた場合には Tukey の HSD 法により多重比較を実施した ( $P < 0.05$ )。本研究の結果, SLR ( $F = 2.46, df = 6, P = 0.028$ ), FFD ( $F = 5.56, df = 6, P < 0.001$ ), HBD ( $F = 7.76, df = 6, P < 0.001$ ) で育成年代間に有意差が認められ, U-18 では他の育成年代と比較して SLR および FFD で最も高い値であった一方で, HBD の結果は大腿伸展筋群の柔軟性が最も低値であることを示していた。本結果はサッカー育成年代間でタイトネスの出現する部位が異なる可能性を示している。

演題2 非侵襲的な経皮的ヘモグロビン濃度（以下 SpHb）測定器を用いた育成年代サッカー選手の貧血の検討

1) 柏市立柏病院、2) 柏レイソルアカデミー

○池川直志<sup>1)</sup>、源和哉<sup>1)</sup>、近藤正史<sup>2)</sup>、大津正夫<sup>2)</sup>

育成年代の選手は、身体の発達とともに鉄の消費が増え、さらにスポーツによる鉄の喪失も相まって鉄欠乏性貧血を呈する選手が相当数いるとされ、貧血状態に陥ると集中力の欠如や易疲労感を引き起こす事が知られている。

そこで SpHb 測定器を用いて育成年代サッカー選手の貧血について調査を行った。某 Jリーグ下部組織に所属する選手、ジュニア 39 名、ジュニアユース 67 名、ユース 35 名の合計 141 名を対象とし、SpHb 値による貧血の有無を判断した。

各カテゴリー別の平均 SpHb 値は 12.2g/dL、13.1 g/dL、14.6g/dL で、貧血頻度は世界保健機構基準ではそれぞれ 25.6%、17.9%、14.3%、東京都の基準では 38.5%、37.3%、14.3%であった。基準値の違いはあるが、各カテゴリーで貧血の選手は存在し、特に成長期とされるジュニア・ジュニアユースでその割合は高かった。

### 演題 3 女子サッカーチーム【オルカ鴨川 FC】紹介及び傷害調査

亀田メディカルセンター スポーツ医学科

○常守 宏治、大内 洋、山田 慎、服部 惣一、市川 顕、信賀 幸太郎

今回、自治体および当院が中心となり発足した女子サッカーチーム「オルカ鴨川 FC」の傷害についてまとめた。このデータと先行研究をもとに考察を行なったので、チーム紹介とあわせて報告する。

2014年登録選手21名のうち主动選手16名（年齢16～36歳 平均25.5歳）を対象とし、チーム活動の少ない5名は除外した。2014年3月～11月の期間中、1日以上練習 or 試合に不参加となった傷害を対象とした。

傷害の総発生件数は16件で、内訳は外傷が14件で障害が2件であった。傷害発生部位は上肢が3件、下肢が13件であった。傷害分類は骨折・脱臼が2件、捻挫3件、打撲4件、肉離れ2件、その他3件であった。

### 演題 4 千葉県におけるユース年代サッカー選手の傷害調査

千葉県サッカー協会スポーツ医学委員会

○熊谷知昭、矢後和夫、縄田健司、住吉貴光、池田宏嗣、金英泰、小林芳隆、澤野啓祐、梁瀬如加、土屋敢、森川嗣夫

近年、千葉県内においてユース年代のチームに帯同し、選手サポートを行うトレーナーは増加していると思われる。そこで本調査では選手の状況を把握し、今後傷害予防に役立てる為に情報を得ることを目的とした。対象はトレーナーが帯同しており、千葉県高校サッカー連盟に加盟している高体連サッカー部12チームの中で同意を得られた選手を対象に平成25年4月1日より平成26年3月31日までの期間を調査した。

調査は千葉県サッカー協会スポーツ医学委員会で作成したアンケートにて、基礎情報として学年・身長・体重・レギュラー。環境としてサーフェス・練習頻度や時間・試合頻度・ウォーミングアップやクーリングダウンの時間や内容・フィジカルトレーニングや測定の有無や内容。傷害に関する事項として月日・罹患部位・受傷機転・病院受診の有無などを調査した。

15:45～ 【メーカーセッション】

### 演題 5 整形外科受診患者の消化器症状実態調査

千葉大学大学院医学研究院整形外科学 遠藤 純 先生

15:55～

【休憩】

16:00～ 【特別講演1】(講演50分 質疑10分)

司会：アシスト整骨院 院長 澤野啓祐 先生

『サッカー日本代表ブラジル W 杯 2014 サポート～【食】厨房からみたもう一つのサッカーワールドカップ』

広野町レストラン アルパイローズ 料理長  
西 芳照 先生

17:00～ 【特別講演2】(講演50分 質疑10分)

司会：千葉メディカルセンター 副院長 森川嗣夫 先生

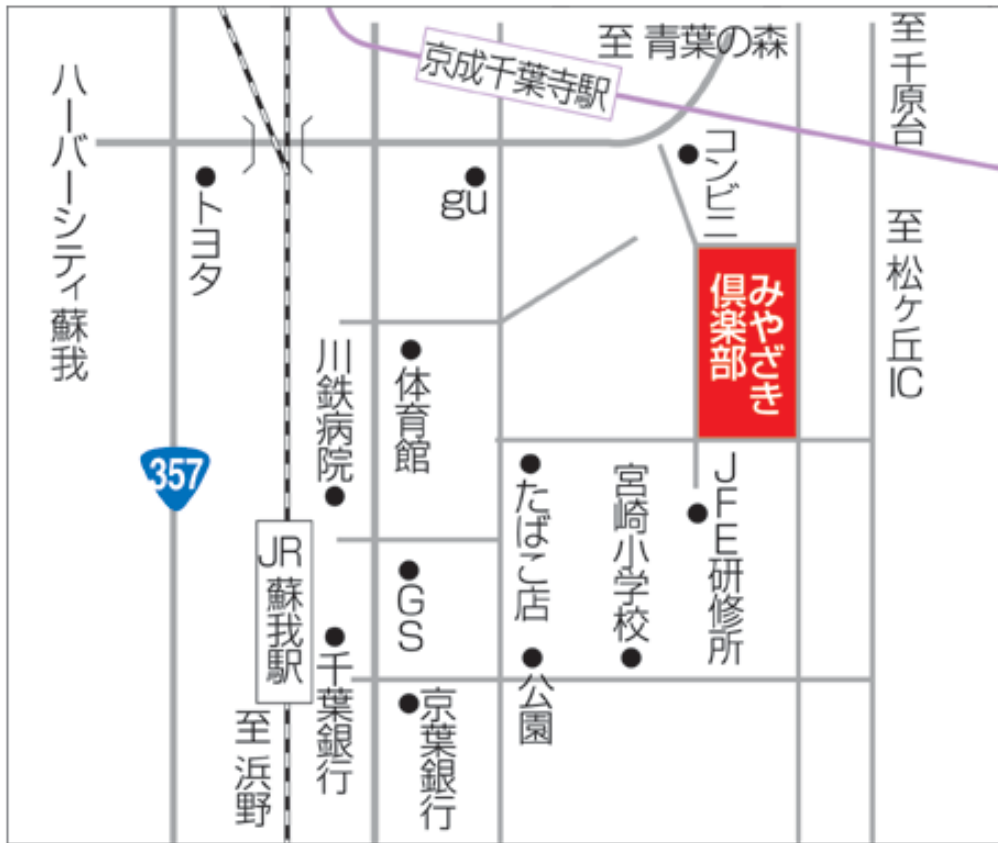
『サッカー日本代表チームにおけるメディカルサポート』

順天堂大学大学院医学研究科整形外科学准教授  
池田 浩 先生

\*認定単位 ・日本整形外科学会教育研修会 専門医資格継続単位(N)1 単位  
【14】医療倫理・医療安全・医療制度等  
・日本整形外科学会スポーツ認定医単位

18:00～ 【閉会の辞】 北千葉整形外科美浜クリニック スポーツ医学・  
関節外科センター センター長 土屋敢 先生

尚、会終了後、情報交換会を予定しております。



<電車でお越しの場合>

J R内房線蘇我駅 徒歩 15 分 京成千原線千葉寺駅 徒歩 7 分

<お車でお越しの場合>

会場横に駐車場がございますのでご利用下さい。

(台数に限りがございます。)